

府中市のなかの 東京外国語大学

[期間]2016年11月18日(金)
-11月28日(月)

[場所]附属図書館1階
ギャラリースペース

※附属図書館開館時間に準拠

東京外国語大学(建設中)

朝日町遺跡

多磨墓地前駅
(現、多磨駅)

府中市立ふるさと府中歴史館の協力のもと、同館所蔵の歴史資料を展示しています

～府中市との連携事業～

東京外国語大学は、2006年府中市との協働・連携に関する相互友好協定を締結し、学術研究の向上及び地域社会の発展に寄与することを目的として、国際化や都市間交流、生涯学習や教育、防災、人材育成等において協働・連携しています。

「地域のなかでの大学の役割とは何か?」との問いを、模索しながら多様な活動を連携して進めています。

■府中市行政文書調査

東京外国語大学文書館では、2016年度より「府中市行政文書調査委託事業」として、府中市が作成・保管する歴史的な行政文書の調査・整理を実施しています。府中市立ふるさと府中歴史館の収蔵庫に収められた1877年(明治10)～1954年(昭和55)の4400点を超す行政文書が、本学の学部生・大学院生により、その目録整備が進められています。

行政文書の整理作業は、普段なかなか手にすることのない歴史資料に直接接触し、その保存・活用環境の在り方を考える機会となるとともに、「実は身近な」行政文書の持つ歴史的価値を知る機会ともなっています。



[写真]行政文書調査。目録作成作業の様子。

■府中市の古文書調査

古文書とは、昔の人の暮らしや地域の歴史を知る手がかりとなる史料です。当時の人びとの日記や書類・証文など文字で書かれたものだけでなく、絵図や昔の地図も含まれます。絵図や地図は、当時の家や道、川などがどこにあったかを再現できる重要な史料です。

府中市では、江戸時代や近代以降の府中について明らかにするため、古文書の所在調査を続けています。約50年前の府中市史編さんの時には、市域の古文書の悉皆調査を行い、その成果を資料集として刊行しています。また、市内の郷土の森博物館では多くの古文書を調査し、所蔵しています。



[写真]古文書調査。現状記録作業の様子。

■府中市史編さん事業

府中市制60周年を機に府中市では市史編さん事業に着手しています。東京外国語大学からも吉田ゆり子教授などが、平成26年度の市史編さん事業の計画当初から関わっています。

市民に府中市の歴史を理解してもらうことで、自分がどのような地域に住んでいるのか、日々の暮らしのなかで気に留めてもらえるような市史づくりが目指されています。

[写真](右)府中市立ふるさと府中歴史館に保管されている歴史資料

